

学 生 歌

浪江源治 作詞
中村良之助 作曲



学 生 歌

(一)

御空に輝く撩爛の
北斗の星に憧憬れつ
久遠の理想を高く求め
辿る天路の草枕
行く若人の仮寝にも
円む夢の清き哉

(二)

紺碧深き海洋の
底方に知れず秘められし
幾十の宝搜すべく
腕鉄の丈夫が
丈余の櫓舵取りて
今し舟出の朝ほらけ

(三)

空に瞬く夕星の
さやけき光仰ぎみつ
いざ高誦さん精進の
自学の曲も朗かに
歌う歌人の胸底に
若き命の響あり

(四)

若き海士の背夕陽あび
月苦の上に傾きて
暮るればゆらく漁火の
友の燈と手を取りて
語り交しつすなどりの
今宵憩わん自治の島

(五)

瞬く星の啓示受け
囁く波の私語聞きて
青葉隠る丘の上の
自学と自治の学園に
灯す燈火の清ければ
千里の原に月淡し